

東洋炭素株式会社

2011年5月期 決算説明資料

2011年7月

東洋炭素株式会社

東洋炭素株式会社

2011年5月期 決算説明資料

第1部 連結決算概要

専務取締役 中原全生

ポイント1

太陽電池・LED用をはじめとする環境・エネルギー分野を中心に、活発な需要の取り込みと高付加価値化を積極的に推進し、前期比3割増の売上高を達成

ポイント2

中国・韓国等の増大する新興国需要に対応し、海外売上高比率は60%に（アジア比率は42%）

ポイント3

急激な円高の影響と、積極投資にともなう減価償却費の大幅増加をこなし
経常利益は2.7倍と急回復

ポイント4

特にコーティング製品やC/Cコンポジット製品等の高付加価値品の拡販に
注力、新規用途・案件の獲得や後半の値上げも奏功し利益貢献

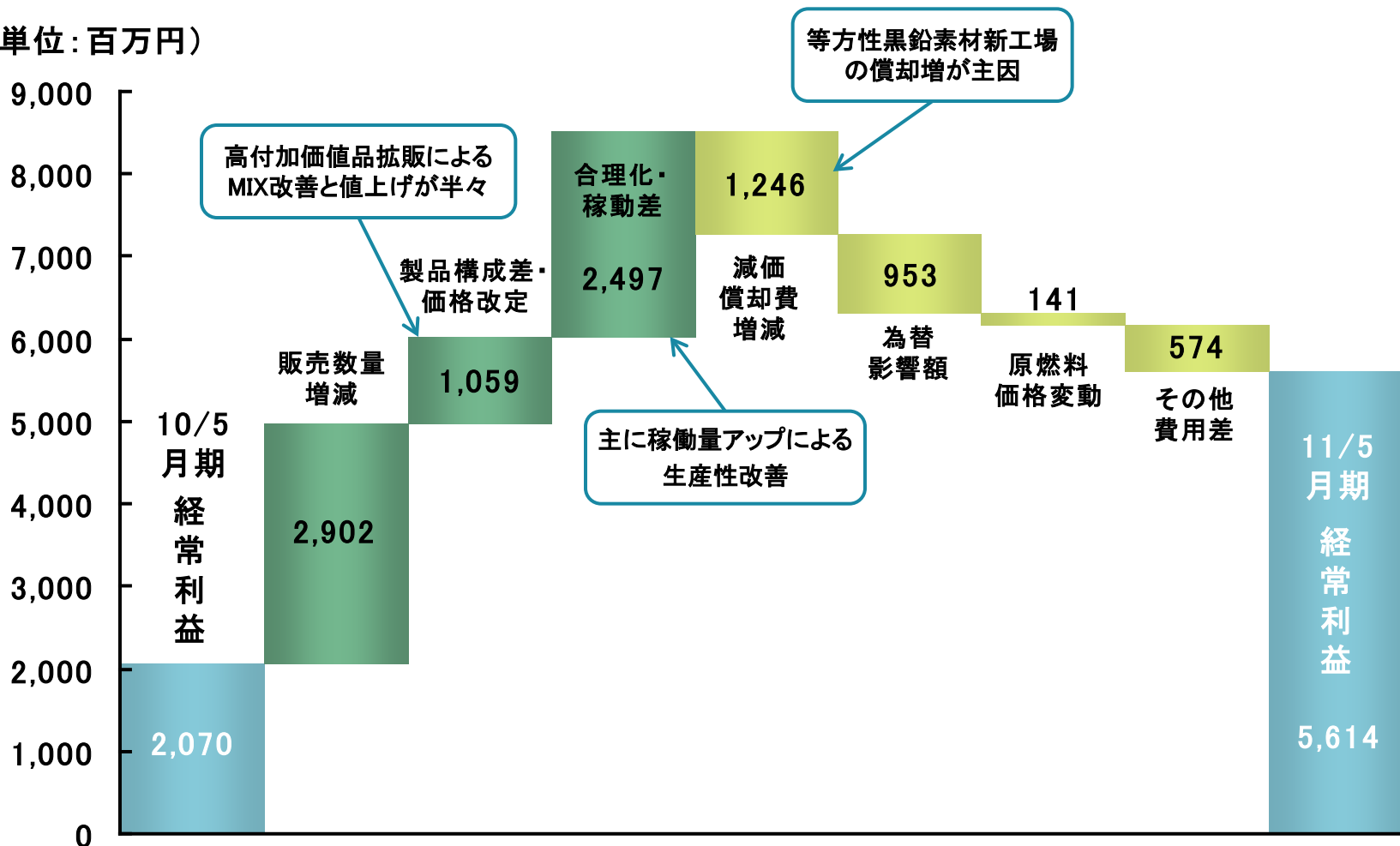
第1部 2. 2011年5月期業績

(単位:百万円)

	10/5月期	11/5月期	増減額	増減率	ポイント
売上高	27,924	37,557	9,632	34.5%	①売上高 円高による目減りをはね返し、過去最高となる375億円の売上を達成。 用途的には、特に太陽電池用と、LED向けを主とする化合物半導体用がけん引。地域的には、中国・韓国を中心にアジアが大幅に伸張。
営業利益	2,253	5,868	3,615	160.4%	
(売上高営業利益率)	8.1%	15.6%			
経常利益	2,070	5,614	3,544	171.2%	②経常利益・営業利益 円高ならびに高水準の減価償却費負担、そして終盤には大震災の影響も一部あったものの、前期比2.7倍の56億円の経常利益を計上。 売上拡大による限界利益増に加えて、コーティング製品・C/Cコンポジット製品等の高付加価値品の拡販と、値上げも利益貢献。
(売上高経常利益率)	7.4%	14.9%			
当期純利益	1,442	3,699	2,257	156.5%	
1株当たり 当期純利益	69円56銭	178円43銭			
為替レート	92.0円/\$ 129.3円/€ 13.6円/人民元	84.0円/\$ 112.9円/€ 12.7円/人民元			

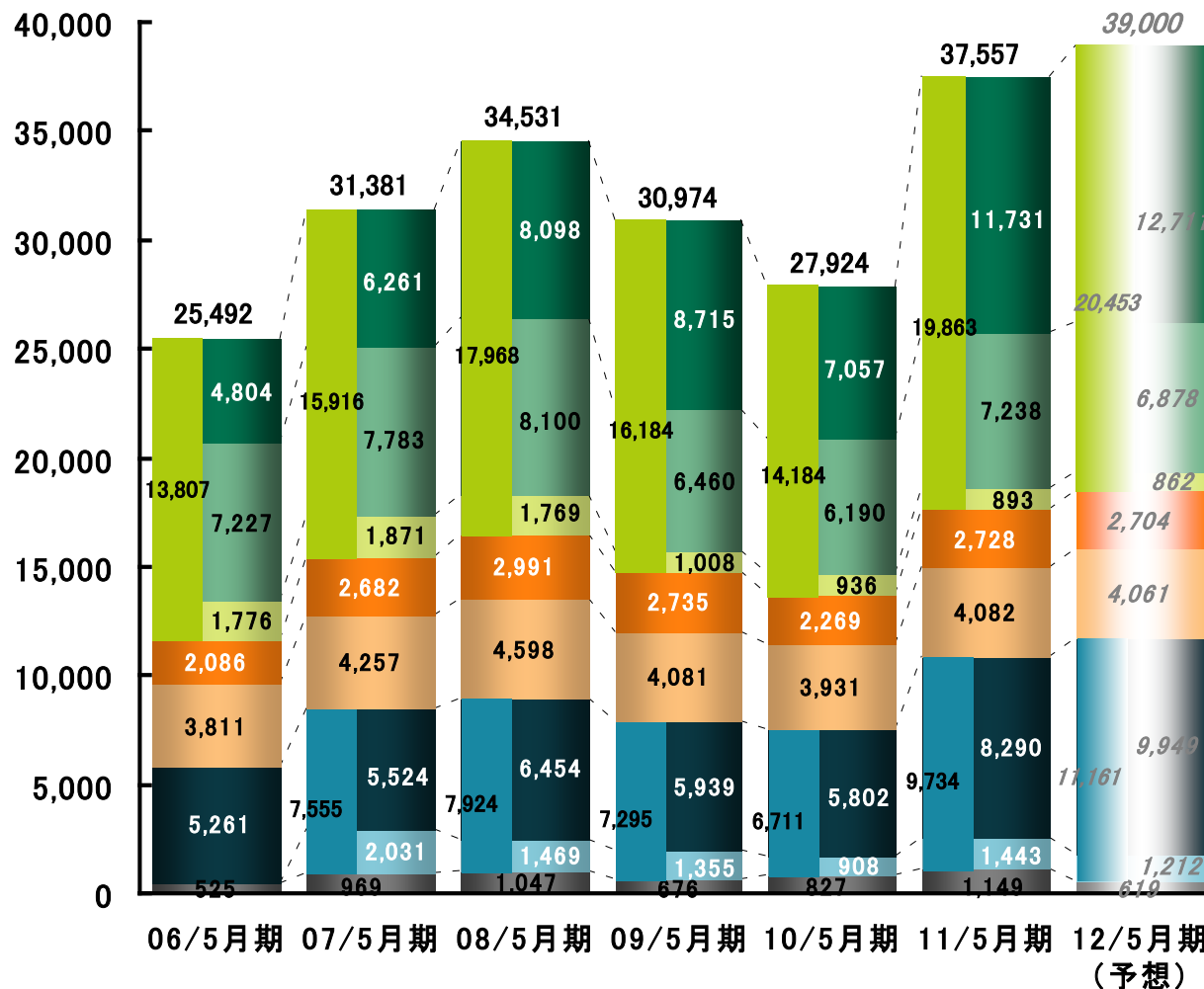
減価償却費増・円高の影響あるも拡販とMIX改善・値上げにより大幅増益

(単位: 百万円)



特殊黒鉛(エレクトロニクス分野)と複合材が全体をけん引

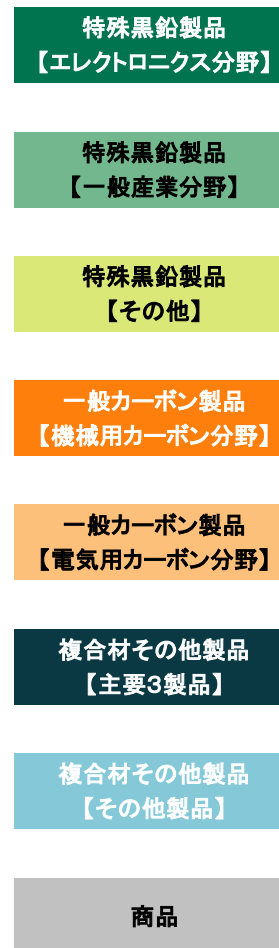
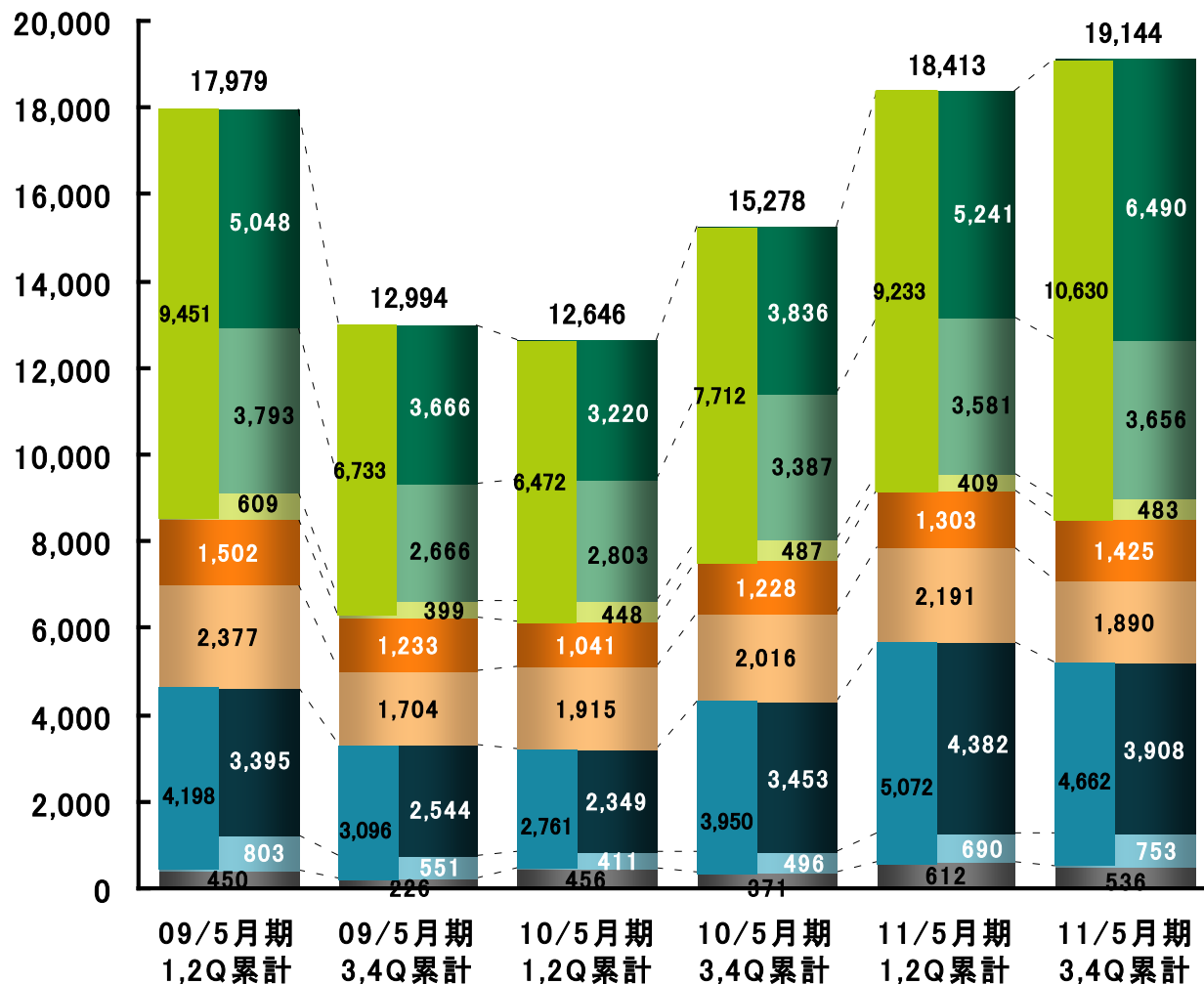
(単位:百万円)



製品・分野	11/5月期 対前期比
特殊黒鉛製品【エレクトロニクス分野】	(+66.2%)
特殊黒鉛製品【一般産業分野】	(+16.9%)
特殊黒鉛製品【その他】	(▲4.7%)
一般カーボン製品【機械用カーボン分野】	(+20.2%)
一般カーボン製品【電気用カーボン分野】	(+3.8%)
複合材その他製品【主要3製品】	(+42.9%)
複合材その他製品【その他製品】	(+58.9%)
商品	(+38.9%)

第1部 4. 売上高内訳 製品・分野別(半期ベース)

(単位:百万円)



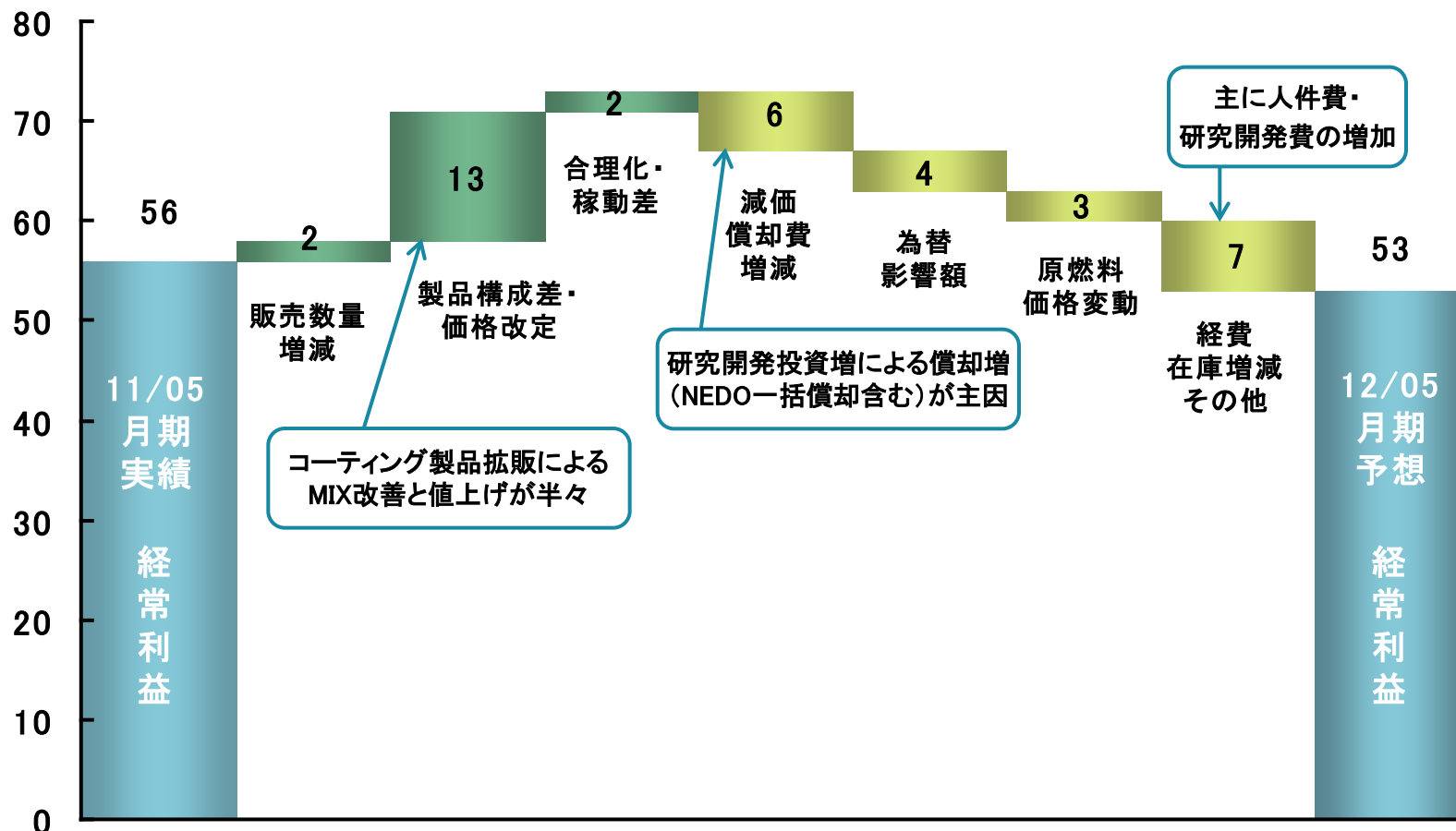
第1部 5. 2012年5月期業績予想

(単位:百万円)

	11/5月期	12/5月期予想	増減額	増減率	ポイント
売上高	37,557	39,000	1,442	3.8%	①売上高 太陽電池・LED用等の環境・エネルギー分野がアジアを中心として引き続き拡大。カーボンを取り巻く環境はポジティブと見る。さらなる円高による目減りはあるも増収を見込む。
営業利益	5,868	5,300	▲568	▲9.7%	
(売上高営業利益率)	15.6%	13.6%			ただし太陽電池用は、主力の中国市場が後半に一時的に調整局面を迎えると予想。複合材等の高付加価値品の拡販でカバー予定。
経常利益	5,614	5,300	▲314	▲5.6%	
(売上高経常利益率)	14.9%	13.6%			②営業利益・経常利益 将来を見据えた能力増強・付加価値投資と研究開発への投資を決定。これらの先行的な経費や減価償却費負担、そして円高が重くなるものの、高付加価値品の拡販や値上げ努力により極力カバーしたい。
当期純利益	3,699	3,400	▲299	▲8.1%	
1株当たり 当期純利益	178円43銭	163円98銭			
為替レート	84.0円/\$ 112.9円/€ 12.7円/人民元	80円/\$ 110円/€ 12.3円/人民元			

減価償却費増・先行経費増・円高の影響を MIX改善・値上げによりカバーし、利益は微減と予想

(単位: 億円)



東洋炭素株式会社

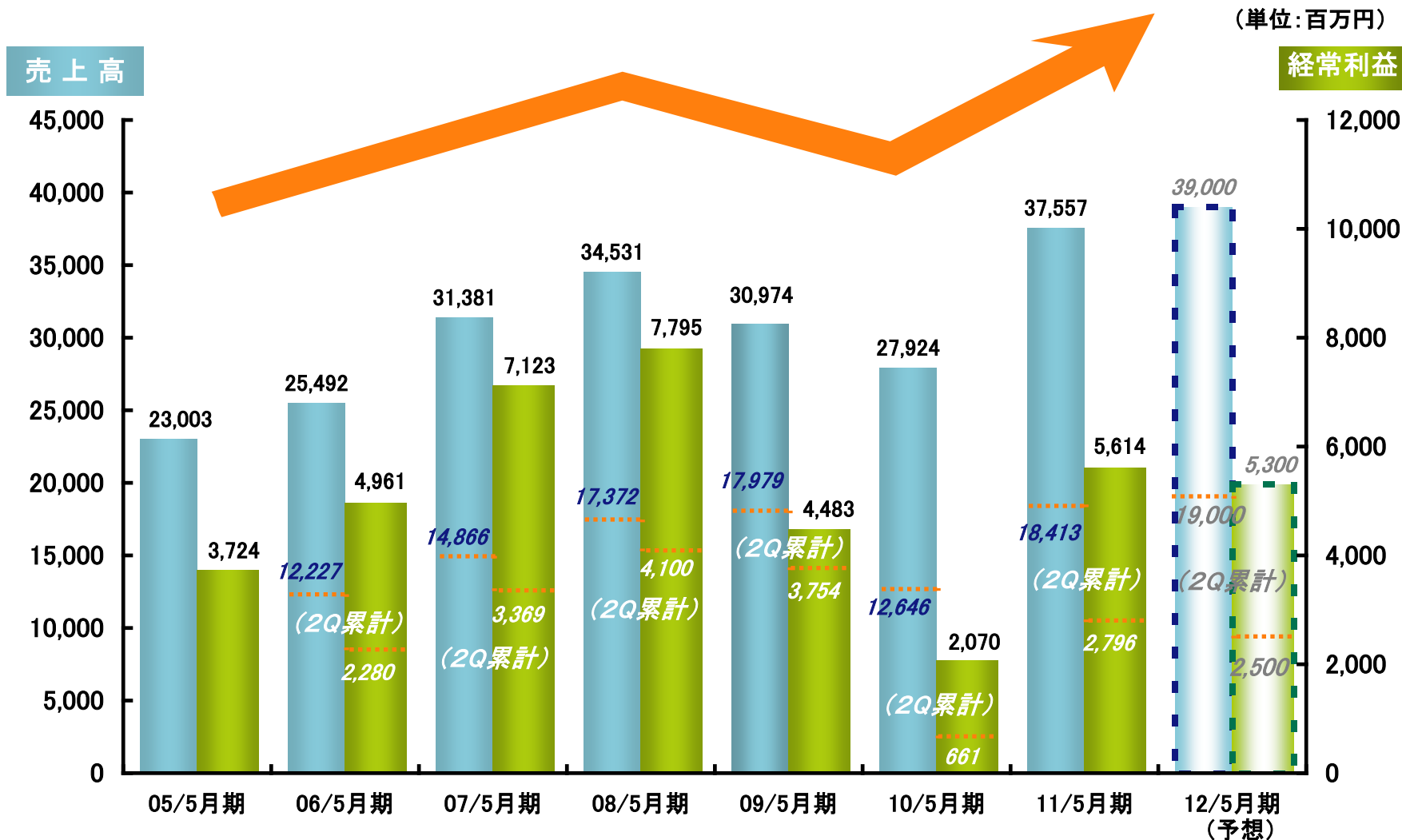
2011年5月期 決算説明資料

第2部 今後の経営戦略

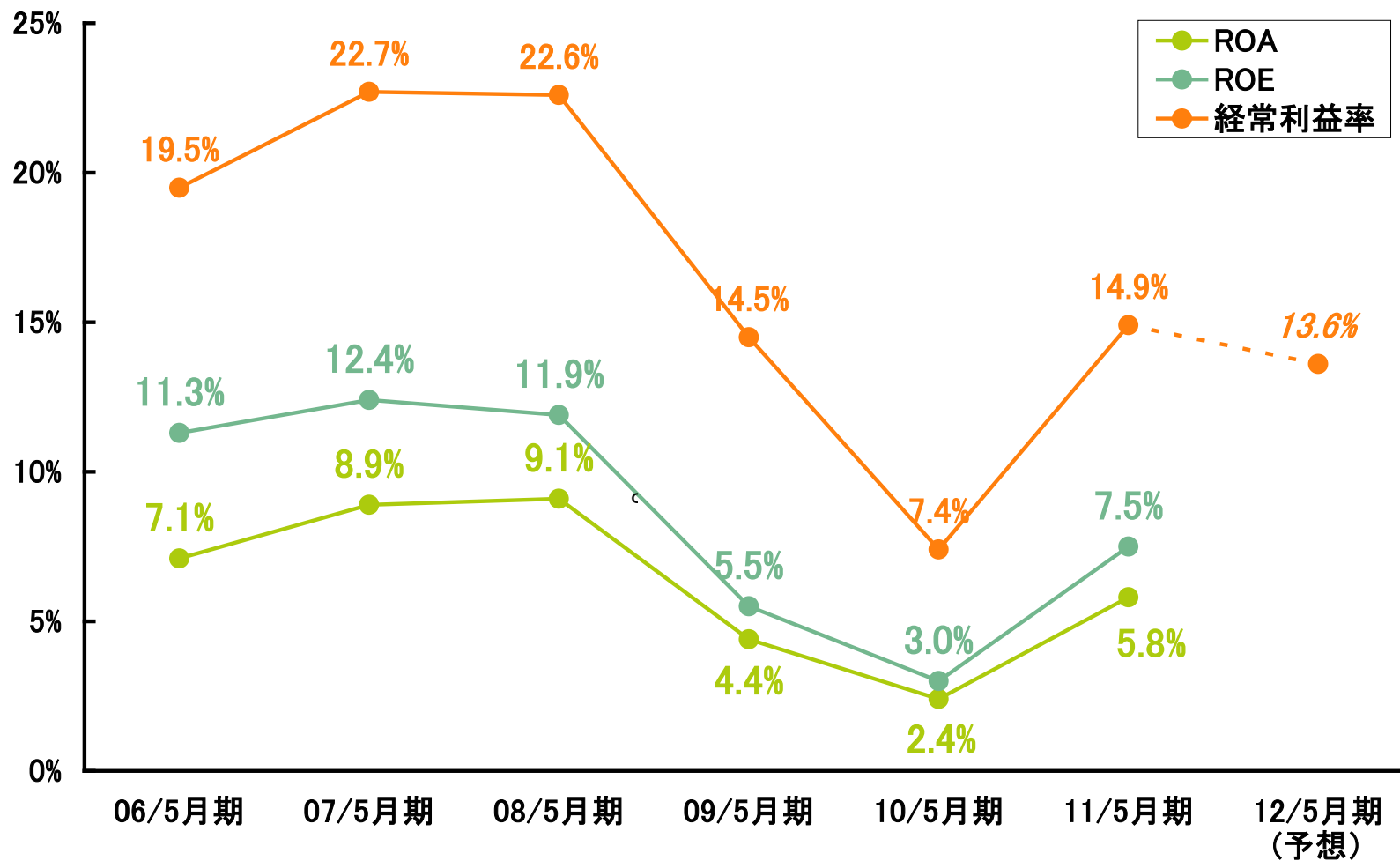
～高機能カーボンのトップランナーとして

代表取締役 近藤尚孝

売上高・利益とも急回復。再び成長軌道へ。



経常利益率は15%水準に回復。ROEも二桁水準が視野に。



2011年5月期の総括

- 震災の影響は直接・間接含めて幸いなことに殆どなし。
- 太陽電池・LED等の環境エネルギー分野の拡販を主因に大幅な増収増益を達成。
- 特に高付加価値品(コーティング製品・C/Cコンポジット製品等)の拡大と値上げが貢献。
- アジアを中心にグローバル化が加速。

2012年5月期の展望

- 震災の間接的影響(電力不足含む)は不透明なるも軽微と想定。むしろプラス側面も。
- 環境・エネルギー分野は依然活況。ただし過熱気味の太陽電池は後半に調整も。
- 引き続き高付加価値化を進めるとともに、値上げに傾注。
- 将来に向けての積極投資(生産および研究開発体制の整備・拡充)を推進。
- 中国高温ガス炉プロジェクトは着実に進捗中なるも、本格展開は次期以降に。

質・量両面での積極的拡大と戦略的投資

将来を見据えた研究開発への重点投資

グローバル展開の加速

永遠のテーマたる生産性向上を目指しての
「改善・改革運動」の推進

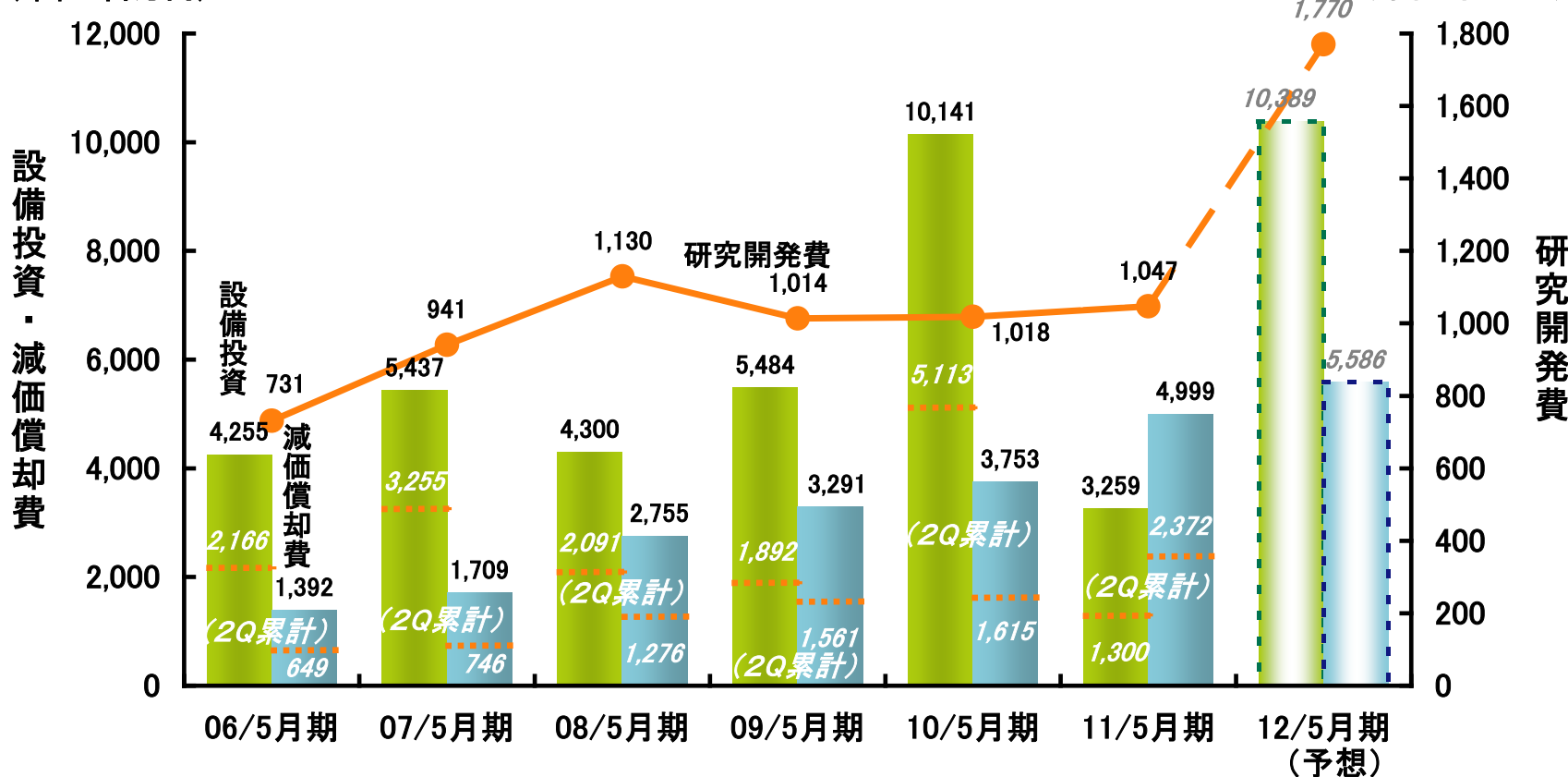
成長企業としてバランスある株主還元を志向

質・量両面での積極的拡大と戦略的投資

—設備投資・減価償却費・研究開発費推移—

11/5月期の投資は一部ズレもあり低水準。
将来を見据え、研究開発含めて再び積極投資へ。

(単位:百万円)



質・量両面での積極的拡大と戦略的投資

— 主な戦略的設備投資 —

生産規模	<p>等方性黒鉛 新工場拡張</p> <p>現状比「約2割増」</p>	<p>C/Cコンポジット 新工場建設</p> <p>現状比「約2倍」</p>	<p>コーティング 生産体制の拡充</p> <p>第1期 2009年比「約3倍」 第2期 さらに「約3割増」</p>
稼働時期	<p>2013年5月期期初～ (売上フル寄与は同2Q予定)</p>	<p>2012年夏～2013年夏 (段階的に増強)</p>	<p>第1期 2011年春稼働済み 第2期 2012年春</p>
設備概要	<p>詫間新工場(第三工場)を拡張し 増強</p>	<p>隣接空地に専用&一貫工場を 新設</p>	<p>日本(大野原工場)、米国の工程を 増強</p>
投資額 建屋・付帯設備含む	<p>約50億円規模</p>	<p>約30億円規模</p>	<p>約20億円規模</p>
特色・強み	<p>主に大型材・高純度材に対応可能な設備とし、さらなる差別化・競争力向上を図る。</p>	<p>超大型材(2m超)等、差別化・高付加価値品に対応可能な設備。 自動化・マテハンも勘案した一貫ライン。</p>	<p>最先端の製法・工程と運営ノウハウを織込み、素材～加工～コーティング～検査一貫の強みをさらに強化。</p>

将来を見据えた研究開発への重点投資

—さらなる成長のために研究開発インフラと体制を拡充—

基礎開発力の強化

☆最新鋭の製造研究設備の導入

- ①独創的な技術・製品を創出するべく最新の設備を導入
- ②競合との圧倒的差別化とスピードアップを目論む

➤総額 10 億円規模の設備投資を実施

成長分野への集中投資

☆環境・エネルギー分野への傾注

- ①表面改質技術の拡充や多孔質炭素類の開発等、複合技術・製品の開発に注力
- ②グリーンイノベーション開発部の創設
- ③NEDOのイノベーション推進事業に採択

➤総額 5 億円規模の関連投資を推進

人材の拡充と体制強化

☆足腰の強い開発体制の構築

- ①若手を中心に新規採用を推進し、要員を大幅に拡充
- ②効果的・効率的な開発を目指し組織体制を整備
- ③大学・公的機関・顧客との共同開発体制の強化

➤研究開発費の戦略的増額

既存競争力の強化

将来の事業の柱

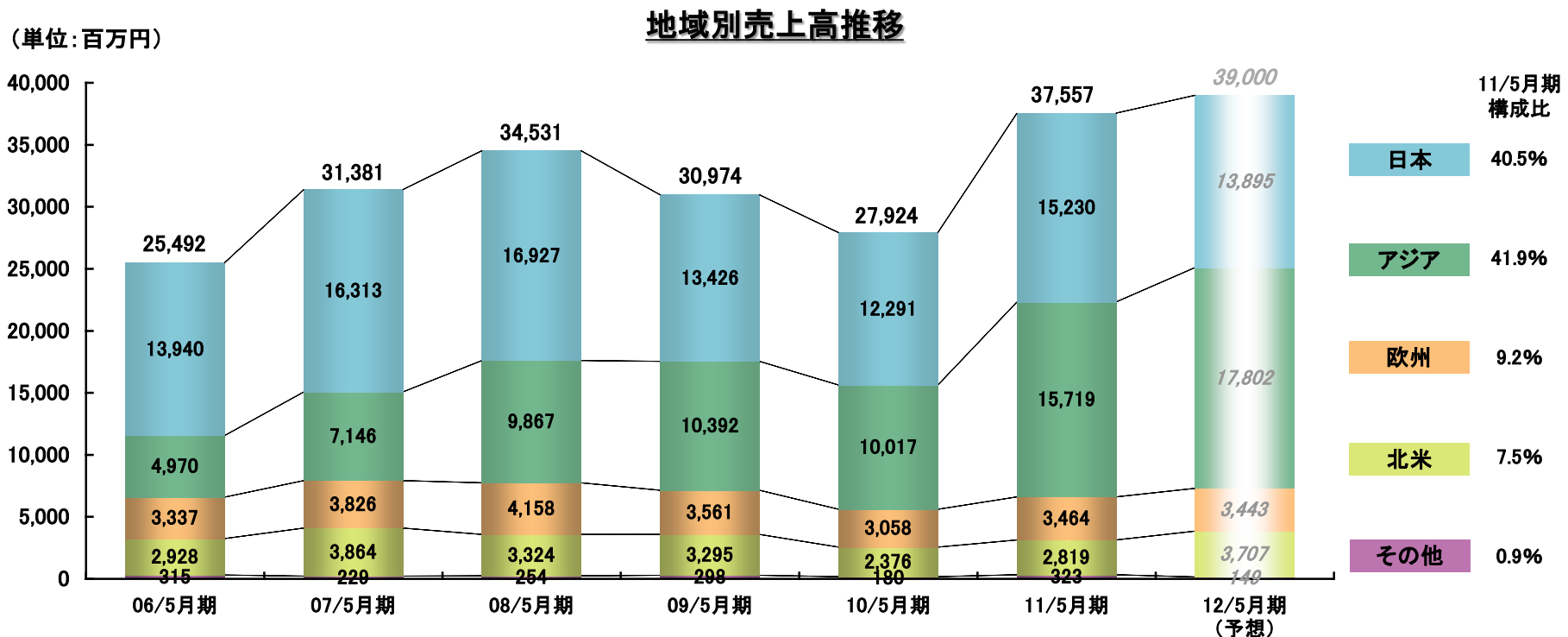
将来を見据えた研究開発への重点投資

—新規開発製品のタネ(一例)—

開発品	特長	段階・進捗状況	ターゲット市場	イメージ	
多孔質炭素 ～細孔制御炭素粉	<ul style="list-style-type: none"> ・マイクロ孔とメソ孔を有する多孔質炭素粉 ・気孔サイズや表面積のコントロールが可能 	設計試作段階 (サンプルワーク・顧客評価中)	新規用途を検討中		
メタライズコート ～炭化金属被覆材料	<ul style="list-style-type: none"> ・任意形状のカーボン基材を炭化金属で被覆 ・カーボンの物理的特性を維持しつつ発塵防止 	設計試作段階 (サンプルワーク・顧客評価中)	治具用途で サンプルワーク中 工業炉・半導体用途も視野		
CBC ～セラミックス-炭素の新規複合材	<ul style="list-style-type: none"> ・特殊なマイクロ構造を有するセラミックス-炭素複合材 ・両者の特性をあわせ持ち、軽量・高強度でしなやか 	基礎研究段階 (少量試作レベル)	医療用等、 特殊・先端用途を中心に検討中		
MBC ～金属-炭素の新規複合材	<ul style="list-style-type: none"> ・特殊なマイクロ構造を有する金属-炭素複合材 ・世界初の熱プレス加工可能な炭素複合材 	基礎研究段階 (少量試作レベル)	シール・摺動材・ ヒートシンク等		MBCの 押出成形

グローバル展開の加速

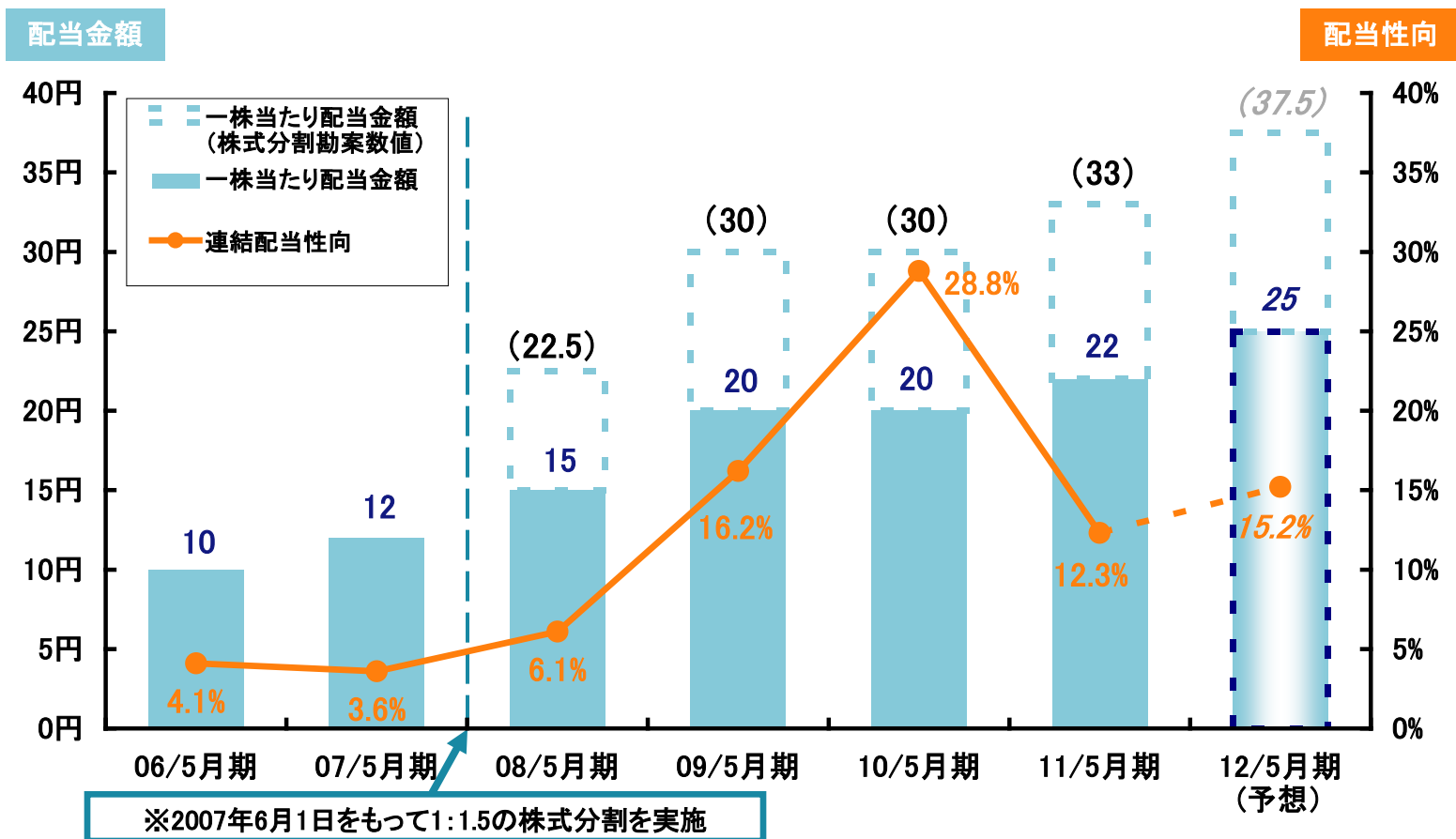
- ◆ 海外売上比率はほぼ6割(59.5%)に。アジア(41.9%)のプレゼンス拡大。
- ◆ 新たにシンガポール(2010年8月)、インド(2011年3月)に営業拠点を開設。
- ◆ 上海東洋炭素(STT)は年間売上規模70億円弱に拡大。
2010年10月に新工場(土地面積2万坪)に移転し、さらなる拡大を志向。
- ◆ 今後も「地産地消」「最適地生産」の考えの下、新たな地域への進出・展開を模索中。



成長企業としてバランスある株主還元を志向

— 配当推移 —

成長への再投資とのバランスも勘案しつつ増配を継続



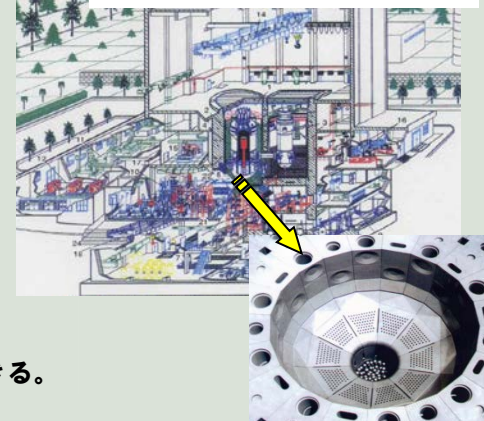
1. 高温ガス炉時代の夜明け

- 当社は世界で初めての商業炉（中国HTR-PM）向けの黒鉛を独占受注し、現在生産中。売上計上時期は2012年以降の見通し。（売上規模：数十億円、黒鉛使用量約1,500 t）
- 現在主流の軽水炉に対して、小型で効率性・経済性・安全性の高い次世代の高温ガス炉への期待が世界的に高まっている。
- 現在、中国のみならず、米国（NGNP）・韓国・カザフスタン等で様々なプロジェクトが実行&提案されている。
- また将来、水素や高温の熱のエネルギーとしての利用環境が整えば、高温ガス炉は新たなエネルギーサイクルのリード役として期待される。
- 当社は、日本・中国での採用の実績と蓄積されたデータ・ノウハウ等のアドバンテージを活かして、各プロジェクトに積極的な提案を行っていく。

高温ガス炉の特長

- ①高い熱効率
 - ヘリウムガスにより900℃前後の熱を取り出せることから、熱効率が極めて高い。
- ②固有の安全性
 - 炉心構造材に黒鉛を使用することにより、万一の際にも炉心が溶融しない。
 - 冷却水を使用しない。
 - 熱容量が大きく、炉心温度の変化が緩やか。
- ③高温の熱の有効利用
 - 発電以外にも高温の熱を水素製造や石炭の液化・ガス化等に有効利用できる。
- ④小型モジュール化による高い経済性

中国清華大学試験炉「HTR-10」



黒鉛の役割

- 高速の中性子を減速するとともに、放射線を閉じ込める反射材としての特質を備えている。
- 高度な耐熱性・熱伝導性・耐食性・安定性等を有することから、炉心用構造材として最適かつ唯一の材料。

2. 太陽を地上につくる核融合炉計画

- ITER計画を支援する日本原子力研究開発機構「臨界プラズマ試験装置の改造（JT-60SA計画）」等において、当社C/Cコンポジット材・黒鉛材を納入中。（総額5～10億円予定）
- ITERのみならず、ITERの支援・補完研究を為す各国のプロジェクト（韓国KSTAR）および原型炉も含めて、10～20年に亘る多様かつ巨大なプロジェクトにおいて、当社の等方性黒鉛材・C/Cコンポジット材等の高機能カーボンの採用が期待される。

「ITER（国際熱核融合実験炉）」

- 究極のエネルギーと言われる核融合エネルギーを平和目的で活用するべく、その科学的・技術的実現性を実証し、核融合実験炉の建設を目指す「太陽を地上につくる」大型国際プロジェクト。
- 日本・EU・ロシア・米国・中国・韓国・インドの7極が参画、仏カラダッシュに10年後の完成を目指し建設中。
- 高温プラズマ・核融合技術で世界をリードする日本は、ITER計画推進・支援において中心的役割を果たしている。

東洋炭素株式会社

2011年5月期 決算説明資料

第3部 補足資料

補足資料1 製品・分野別概況 ポイントおよび今後の見通し(1/2)

用途	用途別売上高イメージ			ポイントおよび今後の見通し	
	11/5月期 1,2Q	11/5月期 3,4Q	12/5月期 予想		
特殊黒鉛製品 エレクトロニクス分野	太陽電池製造用				<ul style="list-style-type: none"> 環境・省エネ志向の高まりを受けて増勢の流れが更に加速。主力の中国ならびに韓国・台湾等含めたアジア地域の需要が急激かつ大幅に拡大。日本・欧州・北米も堅調に推移。 通期の売上高としては前年比で倍増、下期は上期対比3割以上の増と、足もとを含めて急拡大が続いている。中国ならびに韓国・台湾の大手顧客の増設意欲は依然強く、新規増設計画も引き続き目白押し。 ただし中国のセル在庫が増加する等、今後一部調整局面を迎える可能性あり。当用途への過度の傾斜を避けるとともに、優良顧客・案件の選別受注にも注力。 短期的な調整局面をはさみながらも、中長期的には成長軌道に。差別化も含めて競争力強化を推進し優位性を確保していく。
	単結晶シリコン製造用				<ul style="list-style-type: none"> 4Qは、震災の影響も結果的には軽微で済み、海外向けが伸長するとともに在庫積み増しの流れ等もあり、むしろ増加。 通期では、前年比約2割増。ウエハー市況は低調なるも、スマートフォン等の新デバイスの好調を背景に半導体市場は底堅く推移。
一般産業分野・その他	放電加工電極用				<ul style="list-style-type: none"> 主力の海外においては、新興国需要を背景とする自動車・家電産業の好調を受けて、黒鉛需要は引き続き堅調。 ただし国内は、円高等の構造問題含めて金型業界の状況は厳しい。震災の間接的影響も含めて先行きは注視要。
	連続製造用・冶金用他				<ul style="list-style-type: none"> 景気回復と、特に新興国でのインフラ投資の活発化を背景に、国内外とも需要は順調に回復。炉内パーツも堅調。 国内は震災の間接的影響の懸念あるが、全体としては自動車関連および半導体/電子部品関連産業の底堅さを背景に、今後とも堅調に推移予定。

補足資料1 製品・分野別概況 ポイントおよび今後の見通し(2/2)

用途	用途別売上高イメージ			ポイントおよび今後の見通し		
	11/5月期 1,2Q	11/5月期 3,4Q	12/5月期 予想			
一般カーポン製品	カーポン分野 機械用	一般産業用				<ul style="list-style-type: none"> 国内は、経済対策の効果もあり主力の軸受け・シール材等がポンプ・エアコン等の復調を受けて回復。また震災復興支援関連の需要も出て来ている。 展開が遅れていた海外も、エネルギー・インフラ関連の回復を背景に、新規顧客開拓も奏功し拡販中。 景気変動の影響少ないパンタグラフ用すり板は、引き続き安定的に推移。ただし震災後の複数購買化の動きには留意要。また海外展開に向けて引き続きワーク推進中。 主力の中国を中心に既に前期から回復が進んで来たが、今下期以降は調整局面が続いており価格競争も激化。海外売上が8割あり円高による目減りも大きい。 ただし中長期的には新興国需要を背景に漸増を見込む。グローバルなコスト競争力と開発力の強化を推進していく。 産業用は低迷を脱し順調に回復するも売上規模は未だ小さい。フューエルポンプ等の自動車用は、国内自動車生産の減少にともなうダウンが懸念されたが海外のカバーもあり横這い水準。 化合物半導体用は、LCDバックライト用を主とするLED関連の高成長に支えられ上期を中心に大幅拡大。特に韓国・台湾・中国での増設に加えて、国内も増勢となる等、好調に推移。下期に入ると過熱感もあり韓国を中心に調整局面に入るも、終盤には回復傾向に。 半導体関連(Si-Epi用等)も本格回復。コーティング品全体として、通期では前年比約3割増の拡大となった。供給体制も日米拠点で大幅な設備増強を実行中。素材～加工～コーティングの一貫競争力をさらに高めて優位性を確保していく。 半導体用大型つぼは、主要顧客の在庫調整も解消し需要回復。売り先も拡大しつつあり、国内外で売上拡大。 太陽電池関連は、引き続き好調。複数の新規プロジェクト案件の実現に加えて、核融合炉向けのスポット納入も随時入る等、大幅拡大。 C/C全体として、通期では前年比で約8割増となった。今後も成長が見込まれ、生産能力倍増となる専用新工場の建設決定。 主力の自動車用・半導体用を中心に回復基調継続し、通期では前年比約2割増。国内自動車用はエコカー補助金制度終了や震災の影響もあり一時的に停滞するも半導体用がカバー。今後も堅調に推移する模様。
		輸送機械用				
	電気用カーポン分野	小型モーター用				
		産業用・自動車用他				
複合材その他製品	主要3製品	SiCコーティング黒鉛製品				
		C/Cコンポジット製品				
		黒鉛シート製品				

(単位:百万円)

	10/5月末	11/5月末	ポイント
資産合計	61,786	65,191	
受取手形及び売掛金	10,656	13,047	①受取手形及び売掛金 売上高増加により10/05末比2,390百万円増加。
たな卸資産	10,910	12,454	②たな卸資産 中間在庫の計画的積み増し等により10/05末比1,544百万円増加。
有形固定資産	28,290	26,162	
負債・純資産合計	61,786	65,191	
有利子負債	2,113	2,071	
資本金	7,692	7,692	
純資産	48,960	51,748	
自己資本比率	77.4%	77.5%	

(単位:百万円)

	10/5月期	11/5月期	ポイント
現金及び現金同等物の期末残高	5,802	7,090	
現金及び現金同等物の増減額	▲609	1,288	
現金及び現金同等物の期首残高	6,412	5,802	
営業活動によるCF	3,377	7,301	①営業活動によるCF増益により増加。
投資活動によるCF	▲4,103	▲5,380	②投資活動によるCF 有形・無形固定資産の取得による支出は減少したものの、定期預金の払戻による収入の減少もあり増加。
財務活動によるCF	252	▲550	

TOYO TANSO

Inspiration for Innovation

(注) 本資料のうち、業績見通し等に記載されている将来の数値は、開示時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確定な要素を含んでいますので、実際の業績は、業況の変化などにより異なる場合があります。

<お問合せ先>

東洋炭素株式会社 広報・IR担当

TEL: 06-6451-2114(代) FAX: 06-6451-2186

E-mail: ir@toyotanso.co.jp